

## 配本をご利用の方へ(お知らせ)

※予約図書<sup>①</sup>の配本は、年末は12月27日(金)、年始は1月10日(金)に配送いたします。  
ただし、配本する各センターの休館等により配本ができない場合もありますので、通常どおり配本した方のみ、ご登録の連絡方法でお知らせします。配本のない方は、連絡いたしませんので、ご了承ください。

※返却本の回収は、年末は12月27日(金)、年始は1月6日(月)となります。  
延滞資料があると、予約が出来ません。日にちに余裕をもってご返却ください。  
なお、各センターが臨時休館する場合がありますので、ご注意のうえ返却ください。

## 「おたのしみ袋」でかいてみよう

テーマにちなんだ本を3冊セットにした「おたのしみ袋」で本をかりてみませんか。  
何が入っているかは、開けてからのお楽しみ！  
新たな本との出会いがありますように★

期間：12月14日(土)～26日(木)

場所：大垣市立図書館／上石津図書館／墨俣図書館



大垣に伝わるむかしばなし⑫

### 『夜叉姫と夜叉ヶ池』

昔から伝わる夜叉ヶ池の伝説とは、別説の史実にまつわるお話です。

平治の乱に敗れた源氏の大將義朝(よしとも)の一行は、十二月二十七日美濃の青臺宿、大炊長者(おおいちようじゃ)の家に落ちのびてきました。次男朝長(ともなが)は青臺で自害し、三男頼朝は行方不明、長男悪源太義平(あくげんたよしひら)は、平家方に捕らわれて殺され、大將義朝自身も翌年、正月三日に野間(愛知県)の長田忠致(おさただただむね)に裏切られ、入浴中に謀殺(ぼうさつ)されました。

源氏一族の打ち続く悲劇で、父や兄たちを失った延寿(えんじゆ)の娘夜叉姫(やしやひめ)は、わずか十一歳の幼ない心を痛めて、二月十一日夜更けに、家の人が寝静まったすきに家を抜け出し、赤坂の杭瀬川に身を投げて自殺した、といわれています。

夜叉姫の魂は、川をどんどんさかのぼって川上の水源地にたどりつき、深い水底に住みつき永遠の眠りについたというのです。

それからは、この池は「夜叉ヶ池」と呼ばれるようになったという話です。

出典…

『大垣むかし話100話』  
大垣市企画広報課・編



『大垣むかし話100話』は、大垣市電子図書館でも読むことができます。

